

随時記者発表



その先の道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

タイトル	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について(警報)		
区分等	発表	説明者	
	資料配付		
配付資料	別紙のとおり		
発表要旨	<p>浦河保健所管内でA群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行していることから、警報を発令しますのでお知らせします。</p>		
報道に当たってのお願い	<p>住民に対し、手洗い、うがい、咳(せき)エチケットの励行、マスクの着用、十分な栄養と休養をとり体の抵抗力をつけるなど感染予防の呼びかけをお願いします。</p>		
担当	<p>北海道日高振興局保健環境部保健行政室(北海道浦河保健所) 健康推進課長 岸下 誠 電話 0146-22-3071</p>		

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）

平成30年11月13日（火） 15時00分

北海道浦河保健所

電話：0146-22-3071

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、平成30年第45週（平成30年11月5日～平成30年11月11日）において、浦河保健所管内の定点あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数は、警報基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、浦河保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防

患者との濃厚接触を避けることが最も重要とされていますが、実際には困難な場合が多いと思われます。

保育施設など集団生活の場では、熱やのどの痛みがある児との接触を避ける、そのような症状があれば可能な限り休ませるなどの対策が必要です。手洗いやうがいの徹底も重要です。おもちゃなどの口に入る器具や食器にも注意が必要です。

なお、健康保菌者からの感染はまれとされています。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

細菌の一種であるA群溶血性レンサ球菌がのどに感染しておこる感染症で、接触感染や飛沫感染を起こします。のどの腫れ、痛み、発熱、首のリンパ節の腫れなどの症状のほか、発疹を伴う「猩紅熱」を引き起こしたり、数週間後になって心臓弁膜症の原因となる「リウマチ熱」や腎臓をおかす「溶連菌感染後急性糸球体腎炎」などを引き起こすことがあります。

適切な抗菌薬を一定期間使用することは、特にリウマチ熱の予防に有効であるとされています。

年齢別にみると、5歳～15歳が最も多く、幼稚園や保育所、学校などの集団生活の場での感染が多くみられます。

春～夏にかけての感染もみられますが、流行のピークは冬です。

3 その他

(1) 最近5週における定点医療機関からのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告状況

（表示は、「患者/定点」単位：人）

	第41週 (10/8～10/14)	第42週 (10/15～10/21)	第43週 (10/22～10/28)	第44週 (10/29～11/4)	第45週 (11/5～11/11)
浦河保健所	6.00	2.00	3.00	4.00	15※
全道	2.19	2.77	3.19	3.26	—
全国	1.29	1.68	1.92	1.90	—

※第45週の患者報告数は速報値。

なお、確定値及び全道の流行状況につきましては、11月16日（金）以降に、北海道感染症情報センターのホームページで御覧になれます。（URL：<http://www.iph.prcf.hokkaido.jp/kansen/index.html>）

(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した注意報・警報の発令基準値を超えた場合に発令します。

警報は、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

【発令基準】

警報： 定点医療機関あたりの受診患者数が8人を超えた場合

※ 警報発令後は一定医療機関あたりの受診患者数が4人未満になるまで警報を継続